

令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人大利根学園
大利根ふじこども園

1. 本園の教育目標

子どもひとりひとりを大切にし、豊かな子どもの育成を目指し、「やさしく たくましく げんきなこども」を教育・保育の目標として、次の3項目と6つの目指す幼児像を掲げる。

- みんななかよく・・・思いやり
 - ・約束を守り、仲良く遊ぶ子
 - ・人の痛みのわかる、思いやりのある子
- 自分のことは自分でできる・・・自立心
 - ・友達と遊び、健康でたくましい体をつくる子
 - ・人の話をよく聞き、自分の考えや思いを話すことができる子
- つよいからだとやりとげる心・・・生きる力
 - ・元気にあいさつができる子
 - ・生き生きといろいろなものに興味を持つ子

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

こども園の教育課程の内容を見直し、教職員が共通理解をはかり実践することで教育・保育の質を高める。保護者との面談やアンケート結果などから保護者のニーズを確認することで、本園としての中・長期のビジョンを明確化し、こども園が今後担う地域社会における役割について検討する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	安全管理・衛生管理を適切におこなう	B	災害や不審者等の緊急事態発生時に備えた対応だけでなく、新型コロナウイルス感染症への対応についても、新しい情報をもとにマニュアル等の作成や手直しを行い、教職員間で共通理解を図り、実践できるようにしていく。
2	教育・保育の質の向上のために、研修を充実させる。	B	園児について教職員間で共通理解を図り、園全体で対応していくことで、教育・保育の質を高めている。園外研修については、新型コロナウイルス感染症により実施が困難なため、オンライン研修等、希望者のみが実施するかたちとなった。
3	子どもへの共通理解を図り、家庭と連携をして保育にあたる。	A	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、保育参観もなくなり、保護者との意思疎通が思うようにいかないこともあった。しかし必要に応じて面談を行ったり、アンケート等を実施したりすることで、保護者からの意見を教職員間において共有化し必要なものについては、園の考え方を示し改善することで保護者との信頼関係を築いていった。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	教職員一人一人が学校評価の主旨を理解し、それぞれ適切に自己点検・自己評価に取り組んでいる様子が見られた。今後も客観的な目で自らの教育・保育を振り返り、さらに充実した実践ができるよう工夫・改善を行っていききたい。 また、取り組み状況を教職員間で共通理解すること通して、本園としての方針を明確にし、新しい目標とすることができた。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	保育内容の充実・改善	新教育・保育要領に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識しながら、保育・教育の内容の見直しを行う。発達段階に応じて子ども主体の活動を多く取り入れることで、子どもの自立心が芽生え、主体性を伸ばしていくことができるような環境構成を工夫し、保育内容の充実を図っていききたい。
2	特別支援教育	0～2歳児同様に、幼児の支援が必要な園児に対応した個別の指導計画の作成を検討するとともに、医療・福祉の関係機関との連携をどのように図っていくか検討したり、支援を必要としている子への対応のしかたやその保護者支援について、研鑽を積んでいききたい。
3	保護者への対応情報発信	園児の様子を積極的に保護者に伝え、園児の情報について共通理解を図りながら保育に役立てるとともに、保護者への子育て支援を行う。保護者からの相談や意見等は、担任だけでなく職員間で共有し、園での対応方法を協議した上で、園での方針等を園だよりをはじめとする発信文書、園のホームページなどを通じて、保護者に伝えていききたい。

6. 学校関係者評価

教職員による自己評価及び保護者による学校評価をもとに評価を実施した。
今後のこども園運営の改善と発展に努めていく。

<ul style="list-style-type: none"> 概ね適切な保育運営がなされている。 子どもたちは、コロナ禍ではあるが、のびのびとした中にも規律ある生活している。 安全面や衛生面からも引き続き、園内の施設・設備の整備を進めていってほしい。
--

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。
